

スタントマンをテーマにした映画たち

香港アクション映画で伝説を作ってきたアクション俳優たちのスタートは全てスタントマンから。彼らのアクションは海を渡り、世界中に影響を与え、様々なスタントマンをテーマにした映画が製作されています。

2028年の第100回アカデミー賞から新たにスタントデザイン賞の新設が決定し、今後ますますスタントマンたちの活躍が目立つ事となります。是非スタントマンを題材とした映画をお楽しみ下さい。

『ムッシュとマドモアゼル』(77)

監督：クロード・ジディ 出演：ジャン＝ポール・ベルモンド、ラクエル・ウェルチ、シャルル・ジェラルド他、製作国：フランス
『勝手にしやがれ』(60)等で知られる仏の名優ジャン＝ポール・ベルモンドが、スタントマンと人気俳優の2役をコミカルに演じる。階段落ちや、ヘリから飛行機に飛び移るダイナミックなアクションの数々は、ベルモンドが演じるとどこまでもお洒落。

『グレート・スタントマン』(78)

監督：ハル・ニーダム 出演：バート・レイノルズ、ジャン＝マイケル・ヴィンセント、サリー・フィールド他、製作国：アメリカ
スタントマン出身のハル・ニーダムが監督を務め、『ブギーナイツ』(97)のバート・レイノルズがビッグ・スタントに挑むハリウッドの一流スタントマンを演じる。物語の後半、ベテランと新鋭が共に一大スタントに挑むシーンは圧巻。トム・クルーズを思わせる、バイクでのドリフトやビル壁を駆け降りるアクションに注目。

『蒲田行進曲』(82)

監督：深作欣二 出演：風間杜夫、平田満、松坂慶子他、製作国：日本
劇作家つかこうへいの同名戯曲を自ら脚色、深作欣二が監督した大ヒット人情喜劇。人気俳優、銀四郎は「新選組」を撮影中に恋人・小夏との妊娠を知り、スキヤンダルを避けるため彼を慕う大部屋俳優のヤスに小夏を押し付ける。ヤスは小夏とお腹の子を養う為に一念発起し、危険な殺陣やアクションを買って出る。池田屋の階段落ちが見どころ。友情出演に千葉真一、真田広之。

『スタントウーマン/夢の破片(かけら)』(96)

監督：アン・ホイ 出演：ミシェル・ヨー、サモ・ハン、ジミー・ウォン、ニック・チョン他 製作国：香港
ブルース・リー、ジャッキー・チェン作品を担当したレイモンド・チョウが製作、『エブリシング・エブリウェア・オール・アット・ワンス』のミシェル・ヨーがスタントウーマンを、サモ・ハンが彼女を叱咤激励するチーム長を演じる。監督の納得がいくまで、何度も危険なテイクを重ねる彼女の苦悩が胸に刺さる。橋の上から車に飛び降りる撮影でミシェル・ヨーが重症を負った話は『スタントマン 武替道』とも重なる。

『イン・ザ・ヒーロー』(14)

監督：武正晴 出演：唐沢寿明、福士蒼汰、黒谷友香、寺島進、和久井映見他 製作国：日本
ヒーローや怪獣を演じるスーツアクターの世界を描いたアクションドラマ。下積み時代に「仮面ライダー」や「スーパー戦隊」シリーズでスーツアクターを演じた経験のある唐沢が、主人公・本城圭を演じた。アクション俳優を夢見るも、素顔で役を演じる事のないスーツアクターの道でキャリアを積んできた本城に舞い込んだ俳優の出演オファー。しかしその仕事は危険なスタントを伴う役だった。アクションだけでなく、俳優や美術・小道具、撮影部等の制作スタッフ達が一丸となり映画を作る様をリアリティたっぷりに描く。

『ワンス・アポン・ア・タイム・イン・ハリウッド』(19)

監督：クエンティン・タランティーノ 出演：レオナルド・ディカプリオ、ブラッド・ピット、マーゴット・ロビー、エミール・ハーシュ他 製作国：アメリカ
1969年のハリウッドを舞台に、レオナルド・ディカプリオが落ち目の俳優リック、ブラッド・ピットがリックの付き人でスタントマンのクリフを演じ、ハリウッド黄金期に生きた俳優とスタントマンの友情を描く。実在の人物も登場し、ロマン・ポランスキー、シャロン・テート夫妻がクリフの隣人という設定。ブルース・リーとリックが撮影現場で対峙するシーンもある。映画は続編の制作が発表されており、脚本はタランティーノ、監督はデヴィッド・フィンチャー、Netflixでの配信が予定されている。(2025.6月時点)

『カンフースタントマン 龍虎武師』(21)

監督：ウェイ・ジェンツー 出演：サモ・ハン、ユエン・ワーピン、ドニー・イェン、ユン・ワー他 製作国：香港・中国合作
歴代の香港カンフー映画を影で支えた屈強なスタントマンたちの歴史を追った、アクションファン必見のドキュメンタリー。80～90年代に活躍したスタントマンたちの仕事ぶり、かつて東洋一のスタジオと呼ばれた、ショウ・プラザの跡地も見られる。『スタントマン 武替道』に出演するトン・ワイも出演。当時行われていた危険なゲリラ撮影の話や、『ファースト・ミッション』(85)の飛び降りる裏側は、サモ・ハンがいかにか監督・俳優としてカリスマだったかが窺い知れる。

『ライド・オン』(23)

監督：ラリー・ヤン 出演：ジャッキー・チェン、リウ・ハオツン、グオ・チーリン、ユー・ロンガン他 製作国：中国
香港アクション映画界の伝説ジャッキー・チェンが、ベテランのスタントマンとして活躍したが今は一線を退き、愛馬チートゥと暮らすルオ・ジーロンを演じる。債務トラブルに巻き込まれ、チートゥを手放す危機に陥るが疎遠だった法学部生の娘が救おうとする。チートゥとジャッキーのコンビネーションは見事で、2人による乗馬アクションに魅了される。かつてルオが出演した映画を娘と観るシーンでは実際のジャッキー出演シーンと併映するカットと、わざとテイクを重ねようとするジョディのウィットに富んだ会話が楽しい。アクションは勿論、スタントマンと映画監督のラブロマンスを描いた傑作。

『フォールガイ』(24)

監督：デビッド・リーチ 出演：ライアン・ゴズリング、エミリー・ブラント、アーロン・テイラー＝ジョンソン、ハンナ・ワディンガム他 製作国：アメリカ
『フレット・トレイン』等で知られ、米アカデミー賞のスタントデザイン賞設立の発起人であり、自身もスタントマン出身のデビッド・リーチが、ライアン・ゴズリングを主演に迎えて描く痛快アクション。撮影で大怪我を負い、スタントマンを辞めたコルト・シーバースは、製作プロデューサーの指名で再び現場復帰するが、その作品は元カノ・ジョディの初監督作品だった。怪我の後、途絶えてしまった2人の関係を撮影中に再燃するコルトと、わざとテイクを重ねようとするジョディのウィットに富んだ会話が楽しい。アクションは勿論、スタントマンと映画監督のラブロマンスを描いた傑作。